

白山ふるさと文学賞

第八回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

中高校生の部 優秀賞

## 素直率直に

北星中学校一年

浦永 うらなが

芽泉 めい

母は、自分自身を生んでくれた、世界でたった一人の大切な存在です。みなさんは、そんな母に自分の素直な気持ち、伝えることができますか？

私は、小学生までは、何も気に懸けることなく素直率直に言葉を発していました。それがなぜか、中学生に近付くにつれて、母に自分の気持ちを伝えることのためにためらいを持つようになってしまったのです。母が、「どう？美味しい？」

と聞いてきたとすれば、私は、本当は美味しく大好きな物にも拘らず、「普通。」

とか、

「あんまり。」

などそんなふうにならずに答えてしまうのです。十二年間も一緒に過ごしてきたのに、どうして素直になれないのか、自分でも不思議でなりませんでした。そして、私のそつけない態度から、寂しそうにする母の姿を見ると、胸が締め付けられたように感じます。

これは、母と姉と私で出掛けに行くという、私がずっと楽しみにしていた日のことです。この日、私は習い事で帰りが遅くなったのにも拘らず、母は先に行かず、私の帰りを待っていてくれました。なのに、この後のちよつとしたトラブルで私が行きたくないと言い出してしまったのです。母が、

「本当は行きたいのならみんなで行こ。」

と言ってくれているのに、私は

「もう行きたくなくなつた。だから二人で行つて。」

と言つてしまいました。本当は行きたくて凄く楽しみだったのに。この時だけの変な意地と母に対して素直になれない気持ちの表れでした。この時、母が言っていた、

「そうやって意地だけ張っていたら、いろいろなチャンスを逃すよ！」  
という言葉が心に残っています。そういえば前に似たようなことがあった時も、母が同じことを言っていた気がします。私は、この時だけの意

地を貫くために自分に嘘をつき、自らチャンスを逃したのです。母の言った事があまりにも凶星すぎて、そして、いつまで経つても母に対して素直になれない自分が嫌で、それが何よりも悔しくて、涙が溢れました。

母が急遽、病院へ行くことになったのは、まだ4月が始まったばかりの日のことです。この時母は、

「普通ならありえない症状らしいから、今後どうなるか分からないけれど……。」

と、とても不安そうな様子でした。母が病院に行っている間、私は、母が心配でたまりませんでした。もし命に関わる病気だったらと思うと、母と過ごした大切な時間、どうして私は母にそつけなくし、なぜ素直に自分の気持ちを伝えなかつたのかと、とても後悔しました。この時、私は、母の大切さと、そんな母に素直に気持ちを伝えることの大切さを知りました。そして、母が特に何の病気もなく帰ってきた時は、凄くほつとしたし、嬉しかったです。その日は、少し前の私と同じように、

「何ともなくて、良かったね。」  
と母に伝えることができました。

人に素直に気持ちを伝えることは、本当に難しいことだと思えます。私は、相変わらず母になかなか素直に気持ちを伝えられなくて、そつけない態度をとってしまう時があります。でも、母との一つ一つの時間はとても大切なものだと思つた今は、母に対しても、素直率直に気持ちが伝えられるように努力します。十二年間育ててくれた、そして、これからも支えてくれる大切な母に寂しい思いをさせないためにも。母が

「どう？美味しい？」

と聞いてきたとすれば、私は、

「うん。とても美味しいよ。」

というふうになら、いつも素直率直に気持ちを伝えられるようになりたいです。